

公益財団法人日産財団 第1回理科教育賞の選定 <講評>

選考委員会委員長 西本清一

日産財団は、「子どもたちの科学的思考能力の向上」を目的として、優れた理科教育に取り組んでいる幼・小・中学校を支援するために、「理科教育助成」プログラムを実施している。このたび、2010年度に提案した理科教育の実践課題で助成を受け、2年間の教育実践を終えた神奈川県下12校、福岡県下7校、栃木県下4校、合計23校から提出された成果報告書による書面選考を経て、第1回理科教育賞の候補5校を選定した。これら5校による成果発表会が7月26日に開催され、最終選考の結果、下記の各賞受賞校を決定した。

【理科教育大賞（楯と副賞100万円）1校】

筑後市立水田小学校：適切な観察実験の課題を選定し、観察結果に基づく仮説の設定と検証に主眼をおいた理科教育に全学を挙げて取り組むとともに、教員の指導レベル向上にも努めており、「のびしろ」の大きな成果を挙げている。

【理科教育賞（楯と副賞50万円）2校】

横浜市立井土ヶ谷小学校：明確なビジョンの下に多様なメニューの理科教育を実践し、全国的にも模範となる成果を挙げている。従来の取組で蓄積された成果をスタートラインとして、2年間の取組によって得られた「のびしろ」の度合いを明確化する必要がある。

宇都宮市立瑞穂台小学校：中学レベルの理科教育に連動し得る本格的な実験課題を設定し、大きな成果を挙げている。この教育実践の成果を全学の教員が共有し、さらに波及効果を及ぼす取組となることを期待したい。

【選考委員会特別賞（楯と副賞20万円）2校】

横浜市立立野小学校：子どもたちの興味を喚起するような実験課題を工夫し、多様な自然現象を理解させようとしており、優れた取組になっている。

東海大学付属本田記念幼稚園：工作を主体とした教育を受けた園児たちが小学校でどのように育っていくか、今後の成長過程を引き続き追跡したい取組になっている。